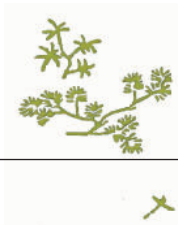


法律学の森



# 新漁業法



辻 信一 著

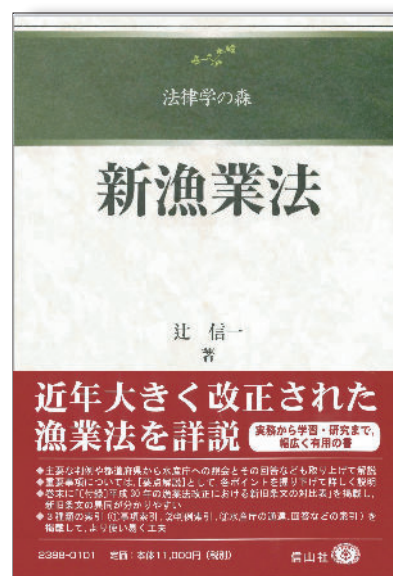
A5変・上製・720頁 定価：12,100円(税込) ISBN978-4-7972-2398-9 C3332

## 平成30年改正漁業法を詳しく解説

【漁業法の体系書が待望の登場—学習、研究から実務まで!】〈本書の特徴〉1. 平成30年新法の構成で解説, 2. 新法で導入された水産資源管理制度も基本から解説, 3. 関連法令も引用, 背景等も説明, 4. 根拠法令の条文や通達の日付等を明示, 5. 特に重要部分は, 【要点解説】で詳説, 6. 判例や通達の中では, 新旧条文番号を併記, 7. 3種類の索引を掲載(事項索引, 判例索引, 水産庁の通達, 回答などの索引), 8. 巻末に新旧法の条文対比表を掲載

### 【目次】

- ◆序章 漁業法制の発展
- ◆第1章 総則
- ◆第2章 水産資源管理
- ◆第3章 大臣許可漁業制度
- ◆第4章 知事許可漁業制度
- ◆第5章 漁業権制度
- ◆第6章 海区漁場計画および沿岸漁場管理
- ◆第7章 漁業調整措置
- ◆第8章 漁業調整委員会
- ◆第9章 内水面漁業
- ◆第10章 土地および土地の定着物の使用
- ◆第11章 雑則
- ◆第12章 罰則



刊行：2022年10月30日

### 〈著者紹介〉

辻 信一 (つじ・しんいち)  
 1985年 京都大学大学院工学研究科修了  
 同年 通商産業省入省  
 2011年 名古屋大学特任教授  
 2017年 福岡女子大学国際文理学部教授  
 2019年 同 国際文理学部長





発刊日	書籍名
2022年 11月30日刊	<b>建築訴訟〔第3版〕</b>
A5判・1,057頁・松本克美・齋藤 隆・小久保孝雄 編	
建築訴訟をめぐる法理・実務・要件事実を研究者・実務家・裁判官が詳説！ 2020年4月以降に契約された建築物でも「欠陥」が見つかるかもしれません。法的対応には、2017年民法改正に対応し、書式・資料等も最新のものをご活用ください！	

<p><b>第1部 建築訴訟の法理</b></p> <p>第1章 建築訴訟の意義と法的構造</p> <p>第2章 建築瑕疵(契約内容不適合)訴訟</p> <p>第3章 建築工事当事者間のその他の訴訟</p> <p>第4章 建築行政紛争</p> <p>第5章 建築近隣民事紛争</p> <p><b>第2部 建築訴訟の実務</b></p> <p>第1章 総説</p> <p>第2章 建築紛争の諸類型と訴訟</p> <p>第3章 当事者代理人からみた建築訴訟</p> <p>第4章 建築訴訟の審理</p> <p>第5章 判決と和解</p>	<p><b>第3部 建築訴訟の要件事実と裁判</b></p> <p>第1章 工事請負契約関係訴訟における要件事実と証明責任</p> <p>第2章 売買契約関係訴訟における要件事実と証明責任</p> <p>第3章 不法行為関係訴訟における要件事実と証明責任</p> <p>第4章 損害額算定に関する諸問題</p> <p>資料編</p>
--	--




発刊日	書籍名
2022年 11月30日刊	<b>事例に学ぶ建物明渡事件入門〔第2版〕</b> —権利実現の思考と実務—
A5判・248頁・弁護士 松浦裕介・弁護士 岩本結衣 著	
個人保証における極度額の設定など、民法のルール変更や新たなコラムを追録し、さらに使いやすく改訂！ 債権法や民事執行法の改正に対応したほか、バーチャルオフィス、シェアオフィス、コワーキングスペースなど、借地借家法適用の有無に争いがあり得るものについて加筆して改訂！	

<p><b>第1編 建物明渡事件のポイント</b></p> <p>第1章 建物明渡事件の類型と基本的考察</p> <p>第2章 建物明渡事件の特徴</p> <p>第3章 建物明渡事件の予防</p> <p>第4章 民法改正の影響</p>	<p><b>第2編 建物明渡の事件の現場—モデルケースを素材として—</b></p> <p>第1章 解約申入れ—正当事由と立退料をめぐる訴訟</p> <p>第2章 賃料不払い1—訴訟外での解決が可能なケース</p> <p>第3章 賃料不払い2—訴訟による解決を図るケース</p> <p>第4章 用法遵守義務違反—建物明渡断行の仮処分、強制執行</p> <p>第5章 内縁の妻に対する明渡し—即決和解の活用</p> <p>第6章 親族間の使用貸借と明渡し</p> <p>第7章 マンション管理費滞納への対応</p>
---	--



発刊日	書籍名
2022年 12月18日刊	<b>デザインと知的財産法実務</b> —ブランドビジネスのための権利保護—
A5判・389頁・弁護士・弁理士 黒田 薫 著	
デザイン保護は意匠法が中心という印象が強いが、実際には商品や包装を商標法で保護、見た目が似ているか否かは不正競争防止法で判断、キャラクターは著作権法、機能性が特徴的であれば特許法で対応、権利期間や登録の有無なども考慮のうえ、ブランドビジネスにどのように活かしていくのか解説！	

<p>第1章 法律の概要</p> <p>第2章 デザイン別保護方法:(1)商品の形態</p> <p>第3章 デザイン別保護方法:(2)画像デザイン</p> <p>第4章 デザイン別保護方法:(3)建築物の外観</p> <p>第5章 デザイン別保護方法:(4)内装デザイン</p> <p>第6章 デザイン別保護方法:(5)キャラクター等</p>	<p>☆詳しい目次はこちらのQRコードから ↓</p> 
---	---